

ミニコミ紙「ひろば」特集号②

(第二十六号から第七十五号) 発行にあたり

いつもご協力いただいている編集委員の方からひとこと。

ミニコミ紙「ひろば」は誰でも、何処からでも自由に入れる“語らいの広場”。昭和五十八年十月創刊、昨秋、第八十七号を迎えました。ここに、第二十六号から七十五号の集約特集第二期分を作成、次は百号を目標に・・・引き続きご愛読の程、お願いいたします。

編集長 飯田 恭次

「ひろば」も七十五号となり創刊から二十五年が経った事になります。皆様の記事を見ていると我々の住む まち”もどんどん変わって来ていることに気付き懐かしく感じます。これからも、この地域の魅力や話題をお伝えできればと思います。ご協力お願いいたします。

編集委員 鈴木 堅之

「ひろば」三号から筆耕として参加して参りました。毎号およそ三千五百字を四ミリ升目の原稿用紙に鉛筆で書いております。一気に書き上げることが出来ませんので、文字にバラつきが目立ち、そこが悩むところです。紙面作りでは、飯田編集長はじめ編集委員のメンバーの皆さんが、細かいところの裁量を任せて下さるので、大変作業がしやすく感謝しております。頂いた原稿を編集会議で添削する時に、その中に登場した地名などが発端となり、それにまつわる話題でひとしきり話が弾みますが、委員の皆さんの博識でいらつしやる事には驚きの連続です。このような編集会議の流れの中で作られていく「ひろば」の魅力に惹かれて、続けることが出来たと思っております。

編集委員 折原 淳子

地元紙「ひろば」に携わり改めて「玉川・瀬田・用賀」のいろいろな認識を深めました。

これからも楽しい情報を皆様にお届けできますようお手伝いさせていただきます。

心待ちにしていたけるような「ひろば」になればと願っています。

編集委員 高橋 澄子

私は平成十六年「ひろば」の瀬田地域担当になり八年が過ぎました。二十九年間も続いている「ひろば」の編集に携わってこられた諸先輩方々のあらゆる方面への知識の豊かさに、私はとても勉強になりました。今後も長い年月手書きの「ひろば」が続いて発行できることを願っています。

編集委員 染野 征子

編集委員になって数年になります。このテーマだったらこの人と思い原稿をお願いに行くと「書くのは嫌だ」と断られたりと悩みは尽きません。三回の編集会議を経て「ひろば」が毎号完成し、それを執筆者にお渡しするとほっとします。原稿は書き手にとってカガミのようなもの、紙面の命です。

編集委員 高橋 佳一

はじめ「ひろば」の編集委員を引き受けた当初は「何とたいそうな事を引き受けてしまったのだろう。私みたいなボンクラに出来るわけない。あーあ困った！」その昔 PTA 活動で一緒にだった方に「年に三回で4ヶ月に1度だし、自分で書かなくても人に頼んで書いてもらえばいいのだから。」ところがさにあらず、春号が終わったなあと思う間もなく夏号が来る。秋号も来る。あいやーと悩んでいる時、バス停で会った見ず知らずの方から、『『ひろば』読んでいますよ。』って云われて「えっ、ほんと。うそ。」と訳も無くただ嬉しかった。

編集委員 千野 昭江

日頃見慣れているまちの風景や催し物も、ちよつと目線を変えてみると全く別のものに見えてくることがあります。

新しい視線で町や地域の魅力再発見し、それらを皆様に伝えていけるような楽しい紙面づくりを目指していきたいと思っています。

編集委員 山田 修一

用賀の町に関わりをもつて五年。まだまだ新参者ですが、商店街や郷土史が好きな地域住民の方、そして「ひろば」の編集委員のみなさまと一緒に活動することで、用賀のまちの奥深さを感じ、貴重な経験をさせていただいております。今後も用賀に関わりのある方々が、郷土史、そして「ひろば」を通して用賀に愛着を持っていただけたら嬉しいです。

編集委員 平井 夏子

事務局よりひとこと

いつも楽しく、とてもためになる「ひろば」の編集会議に事務方として参加させていただき、編集委員のみなさまのご奮闘を間近で感じ、学ぶことができることが何ものにもかえがたく、ほんとうにありがたいことと思います。

用賀出張所 平野 雅子

用賀出張所 吉原 良知

用賀出張所 石井 正純

ミニコミ紙 用賀出張所

「ひろば」特集号②

(第26号～第75号)

平成25年1月発行

発行 用賀地域ミニコミ紙編集委員会

事務局 用賀出張所

世田谷区用賀2-29-22

電話03-3700-9120